

## ふれあい町田便 vol.4 - 私たちの目指すもの -

医療法人社団康心会ふれあい町田ホスピタル リハビリテーション科

地域の皆さまのおかげで、当院は今年で開院より 5 年目を迎えることができました。

当院リハビリテーション科では、地域の皆さまのニーズに応えるため、次のような患者様へのリハビリを中心に行っています。

- 1) 回復期リハビリにおける地域との連携・交流
- 2) 術後早期からの脊椎脊髄疾患患者様へのリハ
- 3) 透析受療中の患者様へのリハ
- 4) 維持期患者様へのリハ。
- 5) 外来リハビリ

これらのうち今回は、1) 回復期リハビリにおいて入院中の患者様に向けて実施した季節の行事の様子（夏祭り、クリスマス会、節分祭）の紹介と、今年 6 月～10 月にご入院されていた患者様を対象として実施した、リハビリテーションの成果に関する調査の結果の一部についてお伝えします。

回復期リハビリは 3、4 ヶ月程度の入院期間集中してリハに取り組んでいただくものですが、自宅などの生活環境から切り離されての長期間の入院は、患者様にとって多大なストレスとなり意欲の維持も大変なものです。通常のリハビリの他に、こうした患者様に対してできる支援は何だろうか話し合い、季節感を感じるきっかけになる行事を催し、療法士やボランティアによる寸劇や歌や手作りの贈りものを贈る会を今年度は 3 回実施しました。ちなみに私は節分祭で青鬼に扮しましたが、患者様が目を輝かせて投げる豆の勢いは容赦なく、一緒に夢中になって息が切れるまで楽しみました。

当院の回復期リハビリテーションの成果に関する調査では、脳血管疾患患者では、対象者の年齢層と FIM という日常生活活動能力評価の変化量は全国データとほぼ一致する結果でした。一方、運動器疾患患者では当院の方が全国よりも平均年齢が高齢であり、FIM の変化量もやや少ない結果でした。高齢の大腿骨骨折などの患者様に対するリハビリの効果をどのように上げていくかの検討が大きな課題と分かりました。

次いで、2) H22 年 10 月～H23 年 9 月の間に当院で脊椎脊髄疾患の手術を行い、自宅退院された患者様を対象として、退院後のフォローアップに関するアンケート調査を実施しましたので、その結果の一部をご紹介します。

調査の結果、自宅退院後、症状の悪化への不安を抱え、階段昇降等の動作に不便を感じながらも、運動としては散歩程度しか実施できていない状況が分かりました。外来リハビリや当院内のメディカルフィットネス町田の利用、退院後の連絡によるサポートなどが有効ではないかと考えています。

今後とも当院リハ科をよろしく願います。（文章：OT 小林）